

2024年度 学校法人 三幸学園 札幌スイーツ&カフェ専門学校 自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 古宇田 圭一

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 小林 隆

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、製菓・調理分野の学校として「美味しくてかわいいスイーツとカフェを通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、製菓・調理分野として「美味しくてかわいいスイーツ・カフェを通じて、時間と空間をトータルプロデュースし、人の心を豊かにする人材を育成する(全ては、お客様の笑顔とありがとうのために)人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

・退学率5%(9月末2%以内(4人以内)3月末5%以内(10人以内))を目標とする

→2023年度退学率7.5%の内、「精神的疾患」「目標喪失」「人間関係」という理由の割合が高かった為、

以下の施策を立て実行した。結果的に2024年度は退学率を9%前年度より増加してしまう結果となったが

1年生のみの結果で見ると2023年度1年生退学率14.1%、2024年度は5.3%と大きく改善が見られた。

ア)1年生は通信制が多く在籍するクラスを設け、同じような悩みを持つ生徒が多くいることでお互いの気持ちを尊重し学校生活を送る事が出来た。

イ)ユナイトルーム(個別授業・実習)を開設する事でなかなか周りとコミュニケーションが取れず実習等の授業も休みがちだった生徒も個別、そして安心安全で学べる環境が設定できた。

ウ)学校生活や進路指導などの面談について、担任だけではなく、複数の教員で対応する機会を多く設けた。また、学生サポートルームのカウンセラーの方にも協力いただき、生徒一人一人にあった丁寧な対応をした。

② 学校関係者評価委員会コメント

【小林委員】

離職率は低く、長期で働いている方が半分ほど在籍している。少人数の現場で20代、30代が多く、ホテル自体の3年離職率は17%程になる。早期に不安を取り除くため、入社後人事部で早期に面談を行っている。所属部署だけでなく人事との関係性も築けているため離職率が低いのではないかと。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

・社会経済のニーズを踏まえた学校の将来構想

業界のニーズや働き方が変化している為、現状の業界動向・社会経済のニーズを把握し、将来構想を抱く必要がある。

② 今後の改善方策

・就職先、実習先との関係性を築くことでニーズや働き方、求める人物像と当校が行っている教育とのずれが無いようお互いの動向を把握する機会を設ける。

・産学連携などでも外部の方と教員、生徒との接触機会を設ける。

・教員を対象に業界関係者の講話機会などを設ける。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

【柿本委員】

就職先や現場を知るために貼り出している求人票を確認し、先生方に相談していた。

【小林委員】

講習会の参加費用を会社が負担し、休みや勉強しやすい環境を整えている。

チームを組みコンクールを実施し、個人で実施するより意欲高く盛り上がる雰囲気を醸成している。

厨房が違くとコミュニケーションが少ないため、様々な厨房でチームをシャッフルして実施した。

年次を問わず商品化もしているので自由度は高い。

実際にチャレンジをし、自分が関わったものが商品化されるのは意欲のある社員にとっては良い環境である。

意欲のない社員にすると苦痛かもしれないが、だからこそ学校での意識づけが必要だと感じている。

貢献感を感じさせることが大事であると考えている。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

① 課題

・情報のシステム化による業務の効率化

業務内での生成 AI や web テスト、ペーパーレスやチャット等を利用し業務の改善がみられるが、発注や授業資料などまだアナログな所もあり業務改善を図る必要がある。

② 今後の改善方策

・生成 AI での授業資料の作成や有料発注システムの導入と勉強会を行い、業務改善を図る。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

【高橋委員】

高校分野は紙媒体をデジタル化した。授業の配布物も紙かデータか選べる。大半がタブレット、パソコンで行っている。学校からの伝達は配信や、紙媒体で送るなど両立している。生徒も保護者も得手不得手があるので、しばらくは両立型でいく予定。

【小林委員】

会社からリーダーなどには携帯などを配布している。伝達に関して紙媒体は減っている。業務中の確認ができない等の理由から伝達を見ることができない人もいたため紙媒体でも発信している。

学校でパソコン操作を学んでいるはずだが現場ではあまりできない現状である。特に Excel などが活用できない。スマホ操作は得意だがパソコン操作ができない社員も多い。

入社の集合研修で観光体験を PPT にまとめて発表させる機会を設けた。（必ず PC に触れなければいけない環境を作っている。）

【古宇田副校長】

次年度から1人1台タブレットを配布予定なので、ビジネスに活用できる学びは高めていく必要を感じている。

【中野主任】

現状では宴会等の予約などの管理は紙媒体がデジタルで実施しているか。

【小林委員】

大体のものはシステム化されているが、宴会などの TODO リスト等は確認用に紙で出して貼り出している。

【古宇田副校長】

現場でもっと学んでおけばよかったことは？また、学校で身についたことは何か？

【柿本委員】

メールの送り方やマナーやルールをもっと学びたかった。デザイン(Canba)は学ぶことができ現場で活かすことができよかったと感じている。Excel や PPT は自身のパソコンを持っていないと操作方法がわからないので、学校でもっと詳しく学びたかった。

【小林委員】

働く場所によるが大企業だとよりパソコンスキルが必要だと思う。パソコンへの苦手意識をなくすことが大事だと思う。また、パソコンができない＝採用しないわけではないが、ビジネススキルとして出来ていた方が本人の気持ちも楽だと思う。メールマナーはあまり理解していないように感じる。(LINE などが普及してメールをあまり使用しない生徒が増えた)

【中野主任】

今年度、欠席連絡を電話連絡無しにしてフォームにしたが高校分野はどうか。

【高橋委員】

高校分野もそうしている。道内の高校もフォームに切り替えているところが多い。業務削減のひとつとして取り入れているのではないかと。電話はハードルが高い生徒も多い。

現場では欠席の連絡はどうしているのか。

【小林委員】

グループ LINE での連絡にしている(言えないようなことは個別に) 入社の際に「対価としてお金をもらっているのだから、休む時には休むではなく、休んでもいいかの確認が必要だ」と伝えている。電話が繋がらない時間等はスマホから連絡をさせている。合理的なのは LINE だがそれだと気持ちは見えないところもある。

(3)教育活動

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4

関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

① 課題

・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか

・職員の能力開発のための研修等が行われているか

教員の指導の認識の統一、授業内容や生徒満足度、業界が求める人物像を育成するにあたり外部と連携し上記向上のために改善する必要がある。

② 今後の改善方策

・年 3 回の全体会議に加え前期・後期で各 2 回ずつ講師会議を行いコミュニケーションや生徒情報の共有を行い指導の認識も統一する。

・外部とも連携し業界のニーズやトレンドなどを授業の中に取り入れる。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

【古宇田副校長】

コンテストの準備は業務内の時間を取らせているのか

【小林委員】

外部であれば通常の業務もあるので、業務時間外で実施。可能な時は時間内に実施させる時もある。内部のコンテストであれば勤務時間内も認めている。

海外のお客様のために英語の勉強が必要なので、外部講師を呼んでいる。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格（免許）取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	4
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

資格（免許）取得率の向上が図られているか

・2024 年度の検定の取得率が前年度と比較しほとんどの検定が低い結果となった。

・検定取得の重要性を伝えきれていないことや検定 WEEK など学校全体でモチベーションアップをする必要がある。

② 今後の改善方策

- ・検定対策集中講義や技能検定対策(検定練習)を行い、合格率をあげる。
- ・検定の重要性を HR や各授業で伝え出席率向上を図る。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

【柿本委員】

ビジネスマナーが学べたことはありがたかった。ラッピングは意外なところでも役立つ。
ホテルではどのような資格を持っている方がいますか？

【小林委員】

資格の手当ではないが、合格すれば会社が受験料を負担している。数年前から調理師手当を支給している。外国語(英語・韓国語・中国語)ができる人への手当でもある。今後も色々な資格手当を重要視で考えている。
高校で資格取得の取り組みを実施しているか？

【高橋委員】

メイクコースの生徒はメイクの検定がある。今年度は週1で短期講座を実施(英検・漢字検定)
卒業後に興味のある資格はなにか。

【柿本委員】

簿記に興味がある。開業するにあたり、自分で帳簿をつける必要があるため。

(5)学生支援

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

① 課題

卒業生への支援体制はあるか

中途退学者への支援体制はあるか

- ・卒業生や中途退学者に対し支援の実施が少ないことが課題である。
- ・卒業後の退職者への新しい職場就職に対しての支援が少ないことも課題である。

② 今後の改善方策

・同窓会や SNS など情報共有を行う。一方的ではなく双方向でやり取りができる環境の設定。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・卒業後に実施してほしいこと

【柿本委員】

開業を望んでいる身からするとコンサルタントのを見つけ方等、開業に向けての流れや知識を知りたい。

高校での支援はどんなものがあるのか等。

【高橋委員】

LINE はあるがあまり活発ではない。直接訪ねてくる生徒が多い。今年度は卒業生に向けて何か実施をする予定。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか

- ・学校外の実習(インターンシップ)先の選定に向けて生徒が自ら探すが、情報などが少なくもっと視野を広げられる仕組みが必要である。
- ・海外研修も同様に行く目的などの動機づけを強化する必要がある。

② 今後の改善方策

- ・昨年度より導入している飲食店スキマバイトアプリを使用し複数の実習先にて合計時間数で単位取得ができる仕組みを継続する。
- ・実習先選定の際にエリア担当(企業担当)とも相談し選定を行う。
- ・海外研修説明会の内容の充実や決まっている内容の情報共有を行う。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

【中野主任】

企業説明会などはあるのか。就職決起会はあるが、職種に関しての事を伝えるボリュームは少ない。早めに情報を与えることが必要。

【小林委員】

学生は職種や働き方をどこまで考えているのか？

技術を磨いていきたいのか、結婚したら辞めるのか、キャリア授業はあるのか等

就職前に先輩から就職活動について話す機会はあるが、ロールモデルになる卒業生があまりいないため、実施できていないため教員から伝える事が多い。3年以内の離職率が高くなっている。安定志向の考え方の生徒も一定

数いるが、そうではない生徒もいる。

飲食はずっと続けられる仕事だということを周知できているか？それを伝えなければ10年後、この業界はどうなるのか不安視している。飲食のイメージを変えていきたい、またレベルを上げていきたい。レベルを上げたい人が町場に行く傾向がある。続けられるなら続けたいと思っている生徒も多いと思うが、環境によるため、この業界の働く環境を整えていかなければならない。今年はホテル希望が多い。

今は厨房だが、マネジメントに異動することもできる。育休や金銭的負担などもあり、長く続けられるように対策をしている。レベルを上げたい人にとってホテルは良い環境であると言える。

目標を持って働くかどうかが重要になる。

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第3期中期計画(2023年度～2027年度)の2年目にあたり、中期計画及び進捗状況はホームページ上に公開している。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

第3期中期計画については、東京未来大学及び小田原短期大学の中計改定に加え、東京みらい中学校及び支援学校仙台みらい高等学園の内容を追加し、第3期中期経営計画(第2版)として改定する予定である。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

① 課題

生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか

- ・生徒のボランティア活動の活躍の場の提供がまだ少ない

学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか

- ・食の分野としてのできること 食品ロスなどの生徒の知識や意識はまだ改善の余地がある。

③ 今後の改善方策

- ・中学校特別支援学級に対しての食の業界のすばらしさを伝えるために生徒主体の出張授業を行う。
- ・授業内でも食材の無駄が出ないように伝えロスを減らす。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(11)国際交流(必要に応じて)

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	4
受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	3
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3
学内で適切な体制が整備されているか	3

① 課題

受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか

学内で適切な体制が整備されているか

- ・学内では留学生担当や教務事務などが在籍管理を行っているが他の教員では対応できていない状況にある。

② 今後の改善方策

- ・留学生の手続きや受け入れなど研修等を行い、教職員全員が適切な対応が出来るようにする。
- ・国際交流は入学前に日本語学校と連携し留学生向けオープンキャンパスを行い、受け入れ(入学)につなげていく。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

この業界に興味を持って入学した生徒たちが志を持ち続けながら現場で活躍できるよう、昨年度は主に就職率を上げることと退学者を防ぐこと、産学連携など行事以外の取り組みを増やし、生徒が活躍できる場を増やすなどの施策を実施した。時間割を調整しユナイトルームという個別で授業が受けられるシステムを開始し初年度であったが１年生退学率の減少という結果が出た。

この学校関係者評価委員会で頂いた意見を基に、現場のニーズを知る機会を増やし、それを生徒に伝達することで早い職業観の醸成、またその就職先で貢献できるよう基本的な技術を身に着けるための教員間の指導技術統一を今まで以上に意識し、次年度の計画に繋げていく。

今後も、更により良い教育を提供できる学校であり続けたいと考えている。